

「農業は感動産業です！」

最終回



蘭越町 農業

及川 かをり

清冽な白い雪景色の農村風景は、花嫁衣裳の白無垢のようだなあとおもいます。欲心や迷いを捨て、静かに心を清めて春を待つ白い田畑は、そのまま農民の生きる姿のようでもあります。

二〇〇三年羊蹄山麓の冬は、師走にはいっても積雪がありませんでした。苦悩や迷いをなかなか白紙にもとせない厳しい二〇〇三年の農民の気持ちをうつしているようでした。それでも直にちらちらと白いものが一面をおおい、いま白一色の冬を暮らしています。

雪の大地は、また新しい一年の希望をたたえて、農村はちら強い春の息吹を迎え入れることでしょう。冬の農村は神聖で美しく、農民はたくましいなあとおもっています。



雄大な大地を舞台にのんびりと平穏な日々を暮らしているようにイメージされがちな農家ですが、そのおだやかな表情のなみは実に奥深いと感じています。米の凶作、価格の低迷、色々あった一年の苦勞が報われないからと、くよくよ不幸な顔をしている人がいないのです。

わが農園のたよりのなさにへこたれているわたしたちを気づかって、大先輩から、こんなもうちからん商売やってられねえべ、とおだやかに語りかけられることがあります。少し戸惑うわたしたち、先輩達の謎の微笑みはたくましい農民魂なのでしょう。平常心で現実を受け止め、立ち止まる事なく歩み続けていきます。着々と大胆な計画を練つ



及川 かをり (おいかわ かをり) さん

札幌市生まれ

1998年より蘭越町富岡在住

夫 肇 41歳

長女 知香 中1

長男 洸一朗 小6

次女 智世 小1

2.2haの農地で約30種類の野菜栽培

ている時も、農民の表情はともおだやかなのです。能ある鷹は爪を隠し、大胆不敵、じたばたしない様子がとてもカッコイイのです。

いちいち笑ったり泣いたり、おろおろ、じたばたしたりしている及川農園は、まだまだ農家の幼虫といったところですよ。



冬場のこの時期は、反省会と銘打った飲み会や会合があちこちで催されます。農家を続けていくことの厳しさに、すっかり消極的思考になっているわたしたちにとって弱気や邪気を振り払う襖(みそぎ)の場です。そこでは鍋を囲みながら、いつも寡黙に田畑と向き合っている温厚な農家のおじさんたちが多弁となって、農業の可能性や夢を

熱く熱く語り合って盛りあがります。話を聞いていただけ、なんとかなるんじゃないかなと、元気がわいてくるのです。皆の一本締めで納会となるころにはすっかり意気揚揚前向き思考となって家路につきます。

どこまで本気の夢なのか、夢という言葉がしっくりこないの、辞典を引いてみました。DREAMでもFANTASYで



農村の明日を考える会合



農村サロン アフター



お手伝い



農村サロン ビフォー

もなく、CONCEPTIO
N?…そうか、これが農村V
ISIONというものなのかな。

役場の会議室で作成されている
とおもっていた農村ビジョンで
したが以外にも身近にあり、農
民たちのそのおだやかな表情か
らは想像もできないほど壮大な
計画でありました。農民は前向
きでたくましい、緻密で大胆な
人々です。

農村将来図設計会議は、今日
もどこかで開催されているもよ
うです。

余談ですが、ハジメさんの解
説によると、冬場の農村では
数々の反省会のほかに、農村の
明日を考える会合（マージャン
大会）が話題に尽きる事なく盛
んに開催されているようです。
また、情報交換と称する会合に
はパチンコ店が使用されている

ようです。

冬、及川農園主はパチンコ(情
報交換)やマージャン(地域交
流)、建築実習と多忙な毎日
を送っています。建築といつても
建築現場のアルバイトに行っ
ているわけではありませんよ。なん
と、及川農園サロンを造ってい
るのです。サロンの使用目的は
定かではありませんが、及川農
園のさらなる活動の場なのだそ
うです。

事の始まりは、使っていな
かった古い納屋でした。納屋を
改造して畑をながめながらコー
ヒーを飲みたいという農園の
援団が、及川農園ビジョンを積
極的に設計・施工、後押しとい
うより先行するかたちでのリ
フォーム計画が始動したのです。
もとより、計画専門の及川農園
主ですから、建築専門家応援団

のみさんがリードして下さい。なければ、夢のまま終わっていただくでしょう。

貴重な土日をさいてトンカチをふるい、木造納屋の改造を楽しむ彼等は、空港や高層ビルといった桁外れに大物を扱う専門家です。美味しい物を食べるのが大好きな建築士たちなので、恐れ多くも報酬は、トマトやトウモロコシです。三年計画

の手作業は難航する事態までも楽しんでいらっしやるようで、順調に進んでおります。



我が家の子供達が最近好んで見るテレビ番組があります。『へえ〜ボタン』という玩具も売れている人気番組なのだそうです。

農家を志してから我が家の暮

らしの周辺には『へえ〜』が氾濫しています。

たとえば、カエルが鳴く夜は気温が二三度以上あるとか、一坪は一人が一日に食べるお米を生産する田圃の面積で一反は一年分の米を基準に定められた歴史があるということなど。

そもそも種をまいて作物を育てる過程のすべてが、『へえ〜』というところからスタートしたわたしたちです。どうして畑にビニール（マルチ）をひくの？

とか、水のかげんや天気と同じ一本の木からとれるトマトの味やかたが毎日常かわるという『へえ〜』な話題もトマトとじっくり産直しています。本日のトマトは水やりを抑えたので皮は少々かたいのですがうまみには自信があります、と野菜の直売をしながらこれらの話題

を都会の奥さんたちと共有しています。

スーパーでは、形のよい野菜でないと売れないといわれていますが、形がよくておいしそうだから選ばれているのだとおもいます。わたしもかつてはそうでした。結果みかけのわるい野菜には値がつかず、かたち重視の生産をせまられるという農家の実情はわからないままでした。おいしいものが食べたいのだというおもいは、農家に伝えるすべもありません。産地や栽培履歴の表示にしても、安心して食べられるということがあたりまえでなくなってしまう結果だ

とおもうのです。安心できないような、悪い話題がニュースや新聞で大きくとりあげられれば、安心を求める声があがるのも当然のことだとおもいます。産地



サロン



尊敬する
鈴木さんご夫妻

表示や認証マークで、生産者と消費者が交流できていると考えるのは寂しいです。

道産のお米のイメージも、情報を提供する努力によって改善され、消費が拡大しています。消費者は“おいしい情報”をもっともっと求めていただいております。

日本人一人あたりの米の年間消費量が年々減少しているとか、農家の後継者がいないという話、農家後継者の奥さんにとっては“だから？”と言ったところではないかと推察します。農家でないお母さんたちにも興味をもってもらえるよう、農業をもっと身近に感じてもらうような努力をすれば、農村や農業の話題でいっしょに“へえ”“”と言ってくれる人の輪が広がるのです。



◆ ◆ ◆
農家は、社長・科学者・職人・

芸術家であり労働者という具合にたくさん顔をもっています。わたしの周知の範囲ではこの他に議員さん・スキーインストラクター・土木会社社長・大工さん等、広範囲で活躍している巨匠農家が存在します。どの方面も共通しているのは、温厚で寡黙、仕事の評価は結果を見てくれといった気質です。結果は良くてあたりまえという仕事に対する誇りも共通項です。今のところ、温厚・寡黙・結果のどれをとっても、及川農園は未熟者です。

農家の世界にはいつて、尊敬とあこがれは日に日に強くなり、修行を積む毎日喜びをおぼえています。しかし、農家は一日

にして成らず、農家への王道なし、農家は奥深いのです。

わたしたちの就農を手厚く応援してくださる先輩農家の方々や野菜を食べて下っているみなさまに導かれて、及川農園が行きつく所がどこのかは、まだわかりません。農家としての暮らしが、まだまだ目新しいわたしたちですが、だからこそ感じられる感動があります。

頑固は職人氣質、理屈っぽさは理論的、身勝手は芸術肌と言ってはばからない、しかも寡黙でもなく結果も出ないハジメさんも、サラリーマン時代からみるとすいぶん清められて柔らかな顔つきになってきているようです。こうして農家への道をたどりながら、農村に魅せられ長く暮らすうちに、わたしたち及川一家が今感じている感動も



冬の畑

あたりまえとなっていくのかも
しれません。

わたしたちには農家の人々に
もそでない人々にも今伝えた
い思いがあります。

農業は感動産業ですーそして、
この感動はみんなでもっともっ
と感じてほしいと。



思ったことを書いていいです
よという編集者のお言葉に、思
いつくままに稚拙な文字を並べ
てしまいました。家族からは、
思った事と思いついたままは、
ちがう！と叱られつつ、日々感
じている農のすばらしさをなん
とかお伝えできるようと願
いながらの作業でした。

農業という伝統ある職業は人
が生きるという事、人は生かさ
れているという事のすべてが生

活の中にあるように感じていま
す。人として生きるということ

を学ぶ予定ではありませんでし
たが、おごりを恥じ無知を知り、
少しずつ生きる力がついてきて
いるように感じています。閉鎖

的なのではないかと危惧してい
た農村暮らしでしたが、そこは
何時でも誰でも暖かくつつん

でくれる場所でした。自分らし
く暮らす毎日はたいへん充実し

ています。農業農村に暮らすと
決心した夫ハジメさんには、と

ても感謝しています。

みなさまのご厚情に、心より
感謝いたします。ありがとうございました。

いずみまなぐさの

作付準備にかかる及川農園

二〇〇四年

及川肇・かをり